



どうして 「体育嫌い」 なんだろう

ジェンダー・セクシュアリティの
視点が照らす体育の未来

井谷恵子・井谷聡子・関めぐみ・三上純 [著]

●四六判・288ページ ●ISBN 978-4-469-26999-4 ●2025年2月刊行

定価2,420円(本体価格2,200円+税)



「体育嫌い」はあなたのせいじゃない!

「運動が苦手な人が『体育嫌い』になるのは、当たり前」。「体育の目的は『うまくなること』だけだから、できない自分は成績が悪くてもしかたない」。そう思っている方は多いと思います。でも、それは本当に「当たり前」で「しかたない」のでしょうか?

「体育嫌い」が本人のせいではないとしたら、何が原因なのか。スポーツ好きであっても体育で嫌な思いをすることがあるのは、どうしてなのか。それらを明らかにするために、この本では「体育嫌い」当事者の声を丁寧に聴き、「体育の当たり前」をジェンダー・セクシュアリティの視点から問い直すことで、誰ひとり置き去りにしない体育の姿を、読者の皆さんと一緒に考えていきます。

体育の先生や、「体育嫌い」の方、「体育嫌い」のお子さんを持つ保護者の方など、「どうして自分は／あの子は『体育嫌い』なんだろう」と思ったことのあるすべての人におすすめの1冊です。

「体育嫌い」当事者の声を聴きました! /

これって
ほんとに
「当たり前」?

- 体育の目的は「うまくなること」?
- 男はできて当然?
- 女性は、男性より体力が低い?
- 男子は柔道でたくましく、女子はダンスで可憐に?
- 服装は指定のもので、選べないのが当たり前?
- 「スポーツとLGBTQ+」はオリンピックだけの問題?

こんな声に
ピンときたら!

これって
ほんとに
「しかたない」?

- 楽しくチームスポーツしたいけど、みんなの視線が怖い…
- ほかの教科よりも「できる」「できない」が見えてしまう
- 生理がつらい時も、授業を休みづらい…
- 水着の女性は、性的な視線を受けてもしかたない?
- 「スポーツができる男=モテる」のマウントがしんどい
- 種目や服装は男女別のもの?
- 性的マイノリティの自分は、体育で居場所がない…

「はじめに」
全文公開中!
試し読みは
こちら



どうして「体育嫌い」なんだろう ジェンダー・セクシュアリティの視点が照らす体育の未来

主要目次

- 序章 なぜ、ジェンダー・セクシュアリティの視点から考えるのか／1章 「体育嫌い」の現実／
 2章 そもそも「体育」とは何か／3章 女性の「体育嫌い」が多い理由／4章 体育は男らしさの競技場／
 5章 男女に分けると見えない存在って？／6章 みんなつらいのは、どうして？
 7章 競技スポーツの「当たり前」を問い直す／8章 社会と体育に染み込みすぎた競争
 9章 「体育嫌い」と共にある実践たち／10章 ジェンダー・セクシュアリティの視点から見る、体育のこれから

「体育」ってそもそも
なんだった？
1から順に、よくわかる

I 「体育嫌い」とは何か 20

序章
なぜ、ジェンダー・セクシュアリティの視点から
考えるのか

「体育嫌い」は沈黙している

体育の授業で、指導者は何を、誰を見ているだろうか。すばらしいパフォーマンス視線が向かうし、元気のよいプレーには拍手を送りたくなる。球技（小学校ではボール）としても、ボールを追いかけて見たいと思うことが多い。このために技能の高い子が多く、目が多くなりがちだ。

小学校のバスケットボールの授業で、子どもたちの触球数やシュート数を調べたの格差に驚いたことがある。どこに動けばボールがもらえるかわからず、コートの中で立ちすくむ子もいる。シュートした本数が「0」という子が大半だった。これではうまくいけるはずもないし、ボールに触れない球技なんておもしろいはずもない。それどころか、ボールが来

ジェンダー、セクシュアリティ、
LGBTQ+についても
しっかり解説

体育の先生に

「体育嫌い」に体育から逃げられてしまう…。好きになってほしいのに、うまくいかない…。「ジェンダー・セクシュアリティの視点」で授業が変わる!

「体育嫌い」の方に

自分のせい、とあきらめてきた。体育での体験がトラウマだった…。つらい体験を解きほぐし、体育の見方が変わるヒントがきっとあります。

LGBTQ+の方に

体育で「いないこと」にされてきた。スポーツ界でのトランスジェンダー排除が苦しい…。つらさの原因と解放の糸口を、一緒に考えてみませんか。

▼紙面見本(70%縮小)

「体育嫌い」の実際の声を
多数掲載

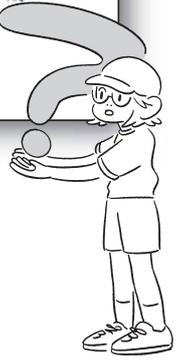
II 「体育嫌い」の経験を深めさせる 172

団体競技や「クラス対抗」といった他者との関わりの中で、運動経験の多い運動部員は成
 熟心を低下させ、運動・スポーツから離脱する「体育嫌い」になっていく、という構図が語ら
 れているのである。この具体的な例として、カメさんは「集団行動」の経験を、あゆむさんは
 「大なわとび」の経験を語っている。

高校の授業で「集団行動」があり、大きな声で校歌を一齐に歌い、規律正しく行動しなけ
 ればならず、軍隊のようで嫌でした。すこしでも、列からはみ出したり遅れた生徒は、全員
 の前で指摘され、その人とその周りの人だけ、やり直しされました。1人でもできなかったら
 ら、全員終われないというような、地獄の授業でした。——シス女性/異性愛・カメさん

大なわ(とび)ってルールによって、また最初からとかだったり、割と1回誰かが引っ
 かかって、途中から再開できるとしてもロスが大きかったりするので、取り返しのつかなさ
 具合でいうと、大なわは割と批判の目的向けられ方としてもある。——シス男性/異性愛・
 あゆむさん

集団行動も、大なわとびも、誰か1人が失敗すると全体に影響を与えてしまう。この失敗は



©HAMAMOTO NATSUMI

大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 TEL:03-3868-2651 FAX:03-3868-2640

- ご注文方法
 ▼書店経由の場合……必要事項をすべてご記入のうえ、最寄の書店にお持ちください。
 ▼直送の場合……必要事項をすべてご記入のうえ、FAXまたは郵便でお送りください。
 ▼大修館書店ホームページ(<https://www.taishukan.co.jp/>)からもお求めいただけます。

番線印

注文内容	書名	税込定価	ご注文数
注文内容	どうして「体育嫌い」なんだろう ISBN:978-4-469-26999-4	2,420円	冊
購入方法	どちらかにチェック→ <input type="checkbox"/> 書店経由 <input type="checkbox"/> 直送 (代金引換・送料=1冊の場合は800円、2冊以上の場合は300円)		
お名前	電話番号	()	
ご住所	〒		